

“セネガルのママのバッグが愛を運ぶ” セネガル・ママ支援プロジェクト
水野（資料提供：I.K.）

ケベメール(KEBEMER)は、セネガルの首都ダカールから140キロほど北にある、ルーガ州ケベメール県の県庁所在地です。村というよりはセネガルでいうところの町であり、電気も水も安定して供給されています。南東に抜けるとトゥーバという大きな宗教都市へ通じ、西北にはかつてフランス領西アフリカの首都が置かれていたサン・ルイ島があります。農業に従事する人の他に、官公庁で働く行政関係者や商売人が暮らしています。ここからダカールやヨーロッパに出稼ぎに行っている人たちもいます。

2004年、この町に女性組合が立ち上がりました。男女完全分業制が根強く残るセネガルで、女性たちの意識向上と自立促進を目的として、様々な活動を行うグループです。ちょうど青年海外協力隊のセネガル隊員として赴任したばかりのAさんが、この活動を支援することになりました。洋裁や手芸が得意なAさんは、グループの拠点である「女性の家」に出入りする女性たちの有志で洋裁部を作り、端切れて洋裁訓練をして、お土産作りを始めることにしました。

セネガルの主婦には、無地の布に刺繍をしたものや、バザンという、地紋のある生地を鮮やかに染色した布が人気です。ですから、洋裁部の女性たちは、にぎやかなアフリカン・プリント製のものがお土産として外国人に売れるとは思っていませんでした。このようなセンスの違いや技術的な問題もさることながら、商品を期日までに仕上げる、計算をして帳簿をつける、といったことを学んでもらうのも一苦労でした。が、Aさんや後任のYさん、アメリカ平和部隊ボランティアのKさん等の粘り強い努力により、洋裁部の女性たちの作ったバッグやポーチは、セネガル在住の外国人や旅行者の間で人気を博すようになりました。また、洋裁部の名も、JIGEEN NU FARLU(ウオロフ語で、仕事にやる気あふれる女性たち、という意味)となりました。当初はミンシも「女性の家」に2台しかなかったのですが、今では全員が持てるようになりました。現在、レギュラーメンバーとしては6名が、それぞれの自宅で製作作業をし、会議の時などに「女性の家」に集まっています。販路も広がり、外国公館や外国人向け施設の他、サン・ルイやダカールのお土産屋で販売され、現地の協力隊員の間では、「KEBESAC ケベサック」(sac サックは仏語でバッグのこと)という名で親しまれるようになりました。

今春のアフリカン・フェスタの際、バオバブの会のメンバーであるI.R.さんと結婚されたAさんから、ケベサックの話聞いたのが契機となり、私たちもケベサックを販売しよう、ということになりました。開始にあたっては、注文方法、お金の受け渡し、輸送の方法といった数々の心配事がありました。が、Aさんはもちろんですが、前述のYさん、ルーガ州の州都ルーガにお住まいのIさん等のご支援によって解決することができました。Yさんが紹介して下さったIさんは、ルーガからケベメールに何度も通い、女性グループを励まして商品を集め、商品代金も輸送費も立替で日本に送って下さいました。その際、郵便局で商品を詰めたダンボールを開封させられ、もう一度詰めなおす、というハプニングもあったそうです。また、第1回の仕入れ商品の半量は、Iさんのご主人によってダカールに運ばれ、9月にセネガルに行かれたI.R.さんご夫妻の友人、Fさんにバトンタッチされ、無償で日本まで運ばれました。さらに、現在、セネガルを旅行中のKさんも、第2回注文の商品を運んで来て下さることになっています。Yさん、Iさんご夫妻、Fさん、そしてKさんも、セネガルにご縁のある方々とはいえ、バオバブの会の会員ではありません。それにもかかわらず、私たちのプロジェクトに快くご協力くださり、感謝にたえません。

さて、第1回注文の商品発送が確定した頃、このプロジェクトの名称を募集しました。多数決の結果、「セネガルのママのバッグが愛を運ぶ セネガル・ママ支援プロジェクト」を採用することになりました。前半は、女性たちの作ったバッグが、買ってくれた日本の人たちにもセネガルの子供たちにも「愛を運ぶ」、という意味で、後半は、アフリカ女性の強さを表現した「アフリカ・ママ」という言葉を参考にされたそうです。が、他のどの案も、皆さんの想いがこもり、捨てがたいものがありましたので、ここでご紹介しておきます。

* Senegal for Senegal project 略してSSP

* From Senegal For Senegal project 略してFFSプロジェクト

* The Joyful Project by the Senegalese , for the Senegalese 略してJPSS・最初の2つと同様、リンカーンの有名なフレーズ of the people , by the people , for the people からヒントを得たもので、やる気のある女性たちの自立という意味もこめられています。セネガル人によるセネガル人のための、喜びに溢れるプロジェクト、という意味だそうです。

* セネガレーズプロジェクト

何はともあれセネガルの女性たちの頑張りがあってこそ、という意味のようです。

* Hand in hand for Senegal Women and Children 略してHSWC

Hand in handとは“手をつないで”という意味です。ケベサックを作製しているセネガルの女性たちと日本にいる私たち、セネガルの女性たちとセネガルの子供たち、購入して下さる方々とこのプロジェクトに携わっている人々等々が手をつなぎ、より素敵な未来を創っていく、という意味がこめられています。

坂本さん製作の素晴らしいPOPと商品タグも完成し、迎えた、横浜国際フェスタでの第1回販売は、I.R.さんによる、協力隊セネガルOBのメーリングリストでの呼びかけも効を奏し、2日間でほぼ完売と大成功のうちに終わりました。続く、みどり多文化フェスタ、みなとグループチャリティコンサートでの販売も好評で、第2便の半分強の商品を販売することができました。

ケベサックは、大きさも形も色合いも布遣いも多彩です。私自身もいくつか購入し、使用していますが、手作りならではの暖かい風合いがあるのに加え、軽いのに丈夫でたくさん入り、ポケットなども工夫されていて使い勝手が良く、とても気に入っています。綿100%ですから、汚れたら洗うこともできます。値段も手頃なのに、この購入が、JIGEEN NU FARLUの女性たちとその子供たちの支援になり、バオバブの会がサポートする小中学校の子供たちの教育支援にも繋がるのです。素敵なバッグを使って二重、三重の支援が叶うなんて、大変に嬉しいことだと思います。

また、購入し使用する私たちの声をJIGEEN NU FARLUの女性たちに届けることで、彼女たちの意欲も高まり、ケベサックの品質向上も期待できます。

来年も、アフリカン・フェスタを皮切りにケベサック販売を頑張り、このハートフルなプロジェクトをますます充実させていきたいと願っています。